

## 令和2年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日時：令和2年8月6日（木）

午後2時から

場所：市役所5階 第1委員会室

### 【配付資料】

- 資料1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
- 資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱
- 資料3 地方創生推進交付金事業評価・検証シート【令和元年度実施分】
- 資料4 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理資料【令和元年度分】
- 参考資料 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点戦略の状況

## 開会

### 市長挨拶

（日比市長）

新しい生活様式ということで、三密を避けながらの会議となるが、新型コロナウイルス感染症対策としてお許し願いたい。

津島市においては、人口減少、少子高齢化などの様々な問題に立ち向かうために平成27年度に地方版総合戦略「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

本日は、この戦略を効果的また飛躍的に進めるため、国が設けている地方創生推進交付金制度を活用した2つの事業の成果や今後の展開について説明をするとともに、総合戦略についての進捗状況等を説明させていただくので、忌憚のないご意見をいただきたい。

また、国や県においては、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定されているが、当市においては第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略を令和3年度からスタートする第5次津島市総合計画と一体で策定するため、現行の総合戦略の計画期間を1年間延長して令和2年度までとした。

本日は第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略についても議題に挙げているので、後程説明させていただく。

## 資料確認

### 委員紹介

- ・各委員紹介
- ・江口委員長紹介

### 副委員長指名

副委員長に山本委員を選出

### 出席状況の報告

## 市職員紹介

### 委員長挨拶

前の会議から期間が空いたが、この数か月間に世の中は一変してしまった。

様々な自治体の会議に委員として出ているが、どの会議でもこれまで話してきたことからガラッと変えなければいけなくなったことが大変多い。特にまちづくりにおいては、人を集めて密を作ることでまちをにぎやかにするということが一番の目標であったが、新型コロナウイルスの影響でそれがやりづらくなってきたので、その代わりとしては何があるのか、従来のシナリオを大きく変えなければならないことが多くなってきている。

本日の会議は、昨年度に実施した交付金事業の評価・検証、総合戦略の進捗についてということで、振り返り的な要素が大きく、この先どうしていくかということについてはウェイトが大きい。皆さんの意見をいただく中で、コロナ後の社会を見据えた意見も積極的にいただきたい。

本委員会は、急激な人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を創生していくため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、津島市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進するために設置をされており、本日は、国の「地方創生推進交付金」を活用した事業の成果や、「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての進捗状況等を説明していただくので、ご意見を頂戴したい。

### 議題（１）地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について

- ・「みんなで発信・発見・おもてなし！津島“にぎわい”創出プロジェクト」について  
事業担当課（シティプロモーション課）より説明

（委員）

SNS で発信されているとのことだが、Instagram のフォロワー数はどのくらいか。また YouTube の閲覧数はどのくらいか。

（シティプロモーション課長）

フォロワー数に関しての資料は持ち合わせていないが、Instagram においてハッシュタグで検索をすると、「津島にぎわい」「cooltsushima」は共に 1,000 件程度あり、他の所でも比較的多く情報発信がされていると考えている。

YouTube の閲覧数に関する資料も持ち合わせていない。

（委員）

この事業の立ち上げ時から見ているが、この事業の実施期間の前の年から、市役所主導で色々な人を巻き込んで大きく育ててくれたと思う。成果としてリピーターや口コミからの参加者の増加につながったと資料に記載があるが、こういったところ

に効果が出てきていると感じられる。皆さんの頑張りがこういった成果につながってきていると思う。必要な財源の見通しがC評価となっており、財源は今後も必要になってくるものなので、ここは議論が必要になってくると思うが、よく頑張ったと思う。

(委員長)

私は地元ではないのでピンと来ないところはあるが、昨年の秋に大学のゼミの学生を連れて津島市内でフィールドワークを行った際、津島神社や天王通り界限を歩いた。その日は休みの日だったが、にぎわっているという感じまではいかないが、観光で来ている人もいて、全く人がいないということではなかった。この事業の目的は津島のにぎわいを創出するというのが一番のポイントだと思うが、他の委員の皆さんは地元でご覧になっていて、この事業を実施した3年間でにぎわいが増えてきていると感じるか。私の印象ではまちに人がまあまあいたという印象である。

(委員)

この2、3年で天王通りの新しいお店がたくさん増えたという印象があり、それによって人も増えているのではないか。

(委員長)

フィールドワークを行った学生に聞いてみると、小洒落たお店があつて結構いいということを言っている学生もいた。津島出身の学生もいたが、前と比べてよくなったと言っている学生もいた。

この事業としては、効果が上がっている部分もあるのではないかと思います。

#### ・「天王信仰の総本社「津島神社」への参道を核とした門前町再生事業」について 事業担当課（産業振興課）より説明

(委員)

KPIの目標と実績に乖離があるが、評価としては頑張ったというのであれば、目標を考えなおした方がいいのではないかと思います。

必要な財源の見通しについての評価について、先ほどの事業ではC評価だったが、今回の事業ではB評価となっており、どこからこういった評価になっているのか。

(産業振興課長)

KPIの「空き家・空き店舗出店数」の実績値が5店舗で、目標値15に対して1/3であったのは、我々の努力が叶わなかったというところもあるが、商工会議所の創業塾の受講者を天王通り周辺での出店者に結び付けるというところに懸かっている。また観光もターゲットにした店舗ということもあるので、飲食店や物販などの店舗の出店に繋げて店舗の数を増やしたいというところで進めてきたが、目標値が高か

ったということをご指摘のとおりである。

財源の見通しに関して、この事業を将来的に運営していくための財源としては、1つは体験プログラムの実施店舗から1店舗当たり1万円をいただき、チラシ作りなどの広報周知に使用している。また店舗の改修工事の際に、出店者からの改修の相談に対応し、工事費の何パーセントという形で工事に伴う管理費も生み出していくというスキームになっている。ただし、活用する物件が多く出るわけではなく、体験プログラムの参加者の料金も500円から1,000円程度の単価なので、運営していく財源の確保は難しいということについては指摘のとおりである。

(委員)

2つの事業とも、取組みの方向は異なっているが、成果としては同じような方向を向いているのではないかと思う。受入れ側の器づくりを産業振興課が実施し、その告知などをシティプロモーション課が実施したことになると思うが、横のつながりがどうだったのかと思う。また数値的な問題では、先ほどの委員からの指摘にあったように、あまりにも目標と実績に差がありすぎる。実際に費用対効果はどのようなのか。また交付金がなくなった後、次の計画にどうアプローチしてくか考えがあればお伺いしたい。

(産業振興課長)

費用対効果について、運営していくための資金について苦慮しているところはある。この事業を理解していただきながら、企業協賛などを募っていくようなことも将来的には必要になってくると思う。先ほどもご説明させていただいたが、県外の旅行会社から小学校の修学旅行に体験プログラムを取り入れ、おもてなしコンシェルジュによるまちの案内もお願いしたいという話が春先にあった。それ以降、コロナの影響で修学旅行の時期が春から秋に変更となり、現在は秋でも難しくなっているような状況であるが、事業を大きくアピールしながら運営費も稼いでいくような仕組みも必要になってくると思う。

(委員)

ハッシュタグをつけてSNSを活用して発信されているとのことで、空き店舗の情報だとか地元に着した活動をしている不動産屋からの情報などについても、産業振興課もシティプロモーション課もしっかりと対応されていると思うが、実際には使い勝手の悪い空き店舗も多いのではないかと思う。近所でも家が傾いているようなところも何件かあるような状況だが、この先空き店舗を有効活用することの見通しはどうか。

(産業振興課)

事業を実施した3年間のうち、2年間は物件調査に注力し、150件以上の空き家、空き店舗の調査を行ったが、委員の指摘のとおり色々な物件があり、屋根が開いてし

まって雨漏りがするもの、ごみが散乱しているもの、所有者の内々の問題があるものなど、様々な問題により、活用できる物件はそう多くないということがこの事業の中で分かった。今後も引き続き物件活用の成功事例を紹介しながら、運営団体が実施していくことになるが、物件が10件、20件と出てくるわけではないので、地道に当たっていく必要があると思う。

SNSに関しては、先ほど課題としてご説明したとおり、年配層が使用するFacebook、若者が使用するTwitter、Instagramといったように、ターゲット層が異なるため、Instagramにおいてインスタ映えを狙うのか、Facebookでファンづくりをしていくのかといったところで、もう少し工夫が必要であったという点は反省点である。最終年度にはInstagramに力を入れており、フォロワー数は208ということで、前年度の81からは120ほど伸びているが、まだ改善の余地はあると考えている。

(委員長)

出店者からの問い合わせが結構あるとの説明があったが、需要が供給を上回っているという状況か。

(産業振興課長)

商工会議所の創業塾の参加者から物件を見たいという話もあるし、それ以外の市民の方や市外の方からも話がある。ただし、思っていたよりも物件の状態がよくないだとか、家賃が考えていたものと違うだとか、マッチングをするための調整がうまくいかなかったというところもあるが、ニーズとしてはあると思う。

(委員長)

それは事業を進める上では見込みのある話だと思う。ビジネスでは買手を見つける方が難しい。空き店舗に限らなくても天王通りに出店したいという民間事業者がいるということは、来訪者が増えるというベクトルに向かっているということだと思う。コロナによって観光のスタイルが大きく変わってきており、先ほど修学旅行の話があったが、この状況では修学旅行で遠くまでは行けない。そうすると近場でそれなりのメニューをしつらえようということになり、県内で歴史・文化を持ったまちとして津島、瀬戸、半田などがチョイスされ、学習性を持たせつつ短期間で回すということが発想される。その点でいえば津島には大きなチャンスととらえてもいいと思う。

1か月ほど前の中部経済新聞で、名鉄と津島市が共同でキャンペーンを行うという記事を見たが、それについてはどうか。

(シティプロモーション課長)

既に議会で予算を認めてもらっており、9月中旬から12月下旬までの期間で実施するために現在調整を進めているところである。

(委員長)

それはとてもいい話だと思う。このコロナ禍の中にあつて、名古屋に近く、一定の観光資源を持った密にならないまちということで結構いいと思う。それに関連して、先ほど委員から SNS のフォロワー数の質問があり、資料の中にも SNS で広報していると記載があり、フォロワー数が 81 から 208 になったとのことだったが、208 という、私のゼミのフォロワー数よりも少ないという感じなので、数字で確認できるところはきちんと確認し、頑張っているから件数が少なくてもいいとは思わずに、数字が少なければ増やしていくことを意識するともっとよくなると思う。

もう一点は、私はいつも津島駅から歩いて来るが、駅を降りたところのチラシを置くスペースに観光関係などの案内チラシが並べてあるだけだった。観光に力を入れているまちとして、まちに来た人にあれで情報を取れというのはないと思う。以前に来た時に学生もパンフレットを並べているだけだと言っていた。しばらく来ていなかったが、今日も同じ状況だった。課題として広報という部分があり、2つの事業に限らず、改善の余地があるのではないかと思う。

では、この2件を通じてご意見等があればお願いしたい。

(委員)

今の委員長からの話について、私たちは津島市の広報部門の一端を担わせてもらっている立場なので反省しきりだが、津島市から色々な事業の情報をいただき、ケーブルテレビなりに PR をしているが、地域の人とこの手の話をしてもほとんどの人が知らないというのが現実で、今日も事業のチラシをいただいたが、どこに置いてあるのか私自身も知らないし、まだまだ PR が足りないと思つて改めた。これからの時代だと地域 Wi-Fi というのがあり、駅周辺に来る人が Wi-Fi を使えるようにケーブルテレビが整備をすることを考えているので、今度市長にもその提案に行く予定だが、そういった新しい時代の PR 方法も含めながら、広報部分を強くしていきたいというのが反省を踏まえた意見である。

(委員長)

広報について事務局から話していただけることがあればお聞かせいただきたい。

(シティプロモーション課長)

全体でということではないが、広報的な意味合いで、今日の話聞いて反省すべき点だと思つたことを踏まえて話をさせていただきたいと思う。交付金活用事業として報告させていただいたシティプロモーション課の津島にぎわい創出プロジェクトと産業振興課の門前町再生事業であるが、委員から両事業は非常に関連していて、産業振興課がベースとなる器を作り、それを活用していく情報をシティプロモーション課が PR をしているという流れだと発言があり、私自身それを聞いてそのとおりで思つた。産業振興課とシティプロモーション課が連携し合つてやっていると言われたと思うが、本当に委員に評価してもらったようにきちんと情報共有し、戦略を

持ってPRできていたかというところは非常に反省すべき点がある。

津島駅前の観光のPR方法だとか、種々ご指摘をいただいたが、こういった点も踏まえて、より連携をしながらいいものにしていけるように工夫して考えていきたい。

(委員長)

それではこの議題はここまでとして次に移らせていただく。

## 議題（２）津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

### 事務局より説明

(委員長)

テーマが幅広いので、まず基本目標1「若い世代の結婚・出産・子育てを応援する」についてご意見等があればお願いしたい。

(委員)

ファミリー・サポート・センター事業について、子どもの世話をする提供会員と子どもの世話をしてもらいたい依頼会員とに分かれており、提供会員は両方会員として依頼会員も兼ねることもある。提供会員の確保が難しい状況があり、なおかつ提供会員が高齢になってきている。そういった中で提供会員の確保を模索しているし、配慮が必要な家庭や外国人家庭の利用もあり、配慮が必要なサポートは他市と比べると多いように感じられる。その都度、子育て支援課や保健センターなどと連携して対応していると思うが、こういったところが問題点だと感じている。

(委員長)

以前この会議で、津島市の若い世代が結婚して市外に転出しており、その転出先は愛西市が多く、以前は愛西市の方が子ども医療費の無料の期間が津島市よりも長かったことが一因だという話をしていたが、今は無料の期間は揃っていると思うので、他の部分でどうかという話になる。これは裏を取っている話ではないが、私のゼミで自分の住んでいるまちの都市戦略を考えるということをやっており、その中で津島の学生が、近隣の愛西市と比較して子ども医療費は揃ったが、愛西市が保育所の補助を去年から手厚くしたということを書いていた。国は保育料を無償化するのに合わせて、自己負担の一部分を愛西市が補助するということがあったが、その辺は把握しているか。

(事務局)

はっきりとしたことではないが、おそらく給食費の補助があるのではないかとと思う。保育料自体は全国的に無償化されているが給食費がかかるので、どれだけの補助かはわからないが、愛西市は給食費の補助をしているのだと思う。

(委員長)

それは一般の人に広く知られてしまっていることなのか、ごく一部の人しか知らないことなのか。子育て世代の女性は知っていることなのか。

(事務局)

はっきりとは分からないが、母親の皆さんのネットワークがあると思うので、近隣のママ友の間で、愛西市が補助をしているということが口コミで流れていっているのではないかと思う。

(委員長)

それだけで人が動くというわけではないと思うが、気になったのは資料の8ページにある年間出生数で、基準値である平成27年度の数よりも減ってしまっていて、目標には大分届かない状況だが、ここはかなり大事な数字だと思う。これには要因が2つ考えられ、出生率が低くなるか、子どもを産む年齢の女性の数が少ないかどちらかである。これはどちらが要因かわかるか。出生率が下がった場合と女性の数が少なくなった場合とでは対策が全然違ってくる。

(事務局)

20代の若い女性が転出されるケースは多いが、転入するケースも多い。ただし比較すると転出が多いという状況である。どちらかというのは難しいが、出生率が低いというのも考えられると思う。平成29年度の合計特殊出生率は1.19だったが、平成30年度は少し上がって1.34となっている。去年は出生数が280なので、合計特殊出生率も1.34よりは低くなるのではないかと思う。このことから、人数的には少なくなってきているが、出生数が少ないということは、出産ということの家庭の事情もあると思うので、なんとも言えない。

(委員長)

今の数字を聞き、出生率が平成29年度から改善していることを考えると、推測では女性の数が少なくなっているということになると思うので、子どもを持ちそうな年齢層の未婚、既婚の女性が減っているという推測が立ち、そういう点から考えて応援施策というのを考えていかなければならないと思う。

目標指標の1つめの子育てしやすいまちだと思ふ人の割合は大体いいが、2つめの出生数が約半分の達成度となっていることを事務局としては、どう解釈しているか。

(事務局)

出生数は平成30年度と比べて約80減っており、その要因としては委員長が言われたように女性の数が減っていることかもしれない。女性の結婚する年齢が上がってきているということもあり、結婚から出産につながっていくのが一番いいと思う



が、結婚されても経済的な問題があったり、計画を立てて出産という方もいると思うので施策としては難しいが、280 という数字が出ているので、これをいかに増やしていくのかということが課題だと思っている。

(委員長)

この若い世代の結婚・出産・子育てを応援するということの市の中での所管はどこになるのか。

(事務局)

様々な課が関連しているが、出産関係ということで健康推進課、子育てということでは子育て支援課、結婚というところは様々な課で担当することになると思うが、子育て支援課や企画政策課といったところが関係する課となる。

(委員長)

なかなか難しいのかもしれないが、このテーマは津島市のみならずどこの自治体でも最大の課題である。どうしても内容的に多岐にわたるので、所管がバラバラになるのはしょうがない面はあるにせよ、全体を把握して全体を推進するような役割をどこか1箇所決めておいた方がいいと思う。国は、少子化担当大臣を置いて、ここが中心でやるというところがあるので、自治体でもそういう取組をした方がいいのではないかと思う。名古屋市では市の本丸部分である総務局が担当することになっている。

では、次の基本目標2「津島に住み続けながら働けるようにする」についてはどうか。

(委員)

名古屋への通勤圏とかそういったことがあっての話だと思う。今日の導入のところで話があったが、コロナ禍の中で、世の中や働き方の在り様が問われており、密であったり、偏在性の問題であったりとか、そういったものの是非が問われている。その中で、密にならなければ働けないのかということで、リモートワークなど、今後大きく変わってくる。工場などの業種でリモートワークというのは難しいが、先日津島に住んでいる人と話したら、ほとんど会社に行かずに仕事をしているということだった。その人はIT関係の仕事だが、そういったことを実際にやっており、元に戻ることはないのではないかと話をしてきた。これを1つのチャンスとして新しい取組をしていく状況だと思う。また働く場所ということでいうと、地元には色々な企業があって働く場所があるということが大切で、最近思うのは梅雨になると線状降水帯などが現れ、局所的に大変な豪雨による災害をもたらすというのが毎年のように起こるようになってきている。そういった中で津島は幸いにも今のところそういった被害はないが、どうしても昔の伊勢湾台風のイメージが残っており、エリアリスクを考えると会社としてここにいることがいかなるものかと考える経営者も少なからずいるの

ではないかと思う。働き方の受け皿として、そういったところも考えなければならぬのではないかと思う。

(委員長)

水の問題というのは実際の現場の経営者の方ならではのことだと思う。最近尾張などの濃尾平野の海拔が低いところで大きな災害がなかったので皆さんがあまり気にされなくなったのかなと思っていたが、意外な視点をいただいた。

この基本目標2の目標指標である社会増減数は、基準値が△340、現状値が△311、目標はプラスマイナス0となっていて達成度は9%しかできていないわけだが、そもそもプラスマイナス0というのは意欲的である。この社会増減は日本人だけの数字とのことだが、どうして津島は転出超過なのか。ここも市にとってはすごく大事なところだと思うが、津島よりもよそがいいから出ていくのか、津島に住みたいがいい物件がないなど、住みたい場所がないから仕方なくよそへ行くのかどちらなのか。もしご意見があればお願いしたい。

(委員)

清林館高校が少し前に隣の愛西市に移転したが、その横に空き地があって、そこに一貫校でも作られた時には、津島市にある3つの高校は全部あっちに入ってしまう。教育という面では愛西市の方が強くなるような気がしてならない。教育の安定化からすると、親が津島に住むと子育てが楽だよねという反応があれば、自然と雇用がついてくるんじゃないかと思う。清林館高校が移ったことは非常にダメージに感じていて、色んな面の数字が変わり始めると思う。津島高校は創立120年で、伝統校だということは間違いないが、そんな言葉は今のママ達には響かない。教育費が月、年にいくらかかるという視野を持っておかないと、愛西市に引っ越すという気になってしまう。津島市になくて愛西市にあるもの、そういったことを含めて愛西市の方が住みやすいから隣に行こうかなということになるのかなと思う。

(委員長)

教育は住む場所の選択でものすごく大きな影響を与える要素である。津島は津島高校もあり、他の学校もあり、都市規模に対して学校の数は揃っていると思う。頂点校はないが、その次ぐらいのところからずらっとラインナップが揃っており、割と恵まれているのかなと思っている。なので以前思ったのは幼稚園の話で、津島市内に住む幼稚園児の相当な割合が愛西の幼稚園に通っているが、地形の問題で津島市を取り巻くように愛西市があり、愛西の幼稚園バスが津島市を通りやすい状況である。そして愛西市は割と今風の幼稚園で、津島市はお寺が併設しているところも多いので、イメージ的に今の若いお母さんは新し目のところを好むという要因もあるのではないかな。

住宅供給量がないという要素は考えられるのか。豊田市は豊田市内に住みたい人はいくらでもいるが、農業振興地域で宅地化できず宅地供給力がなく、そのため豊田

市内の住宅地は高く、周りに逃げていくという構図がある。

私自身、これはすごく大きなテーマだと思っている。そもそもこの総合戦略の4項目はどれも大事なことだが、この1つ1つについて、市でしっかり調べているのかどうなのかというところは感じなくもない。こういう場で委員が意見を言う場ももちろん大事だが、行政で調べれば大体わかることなのではないかと思う。社会減がなぜこんな状況なのか、市としての認識は事務局としてどうか。

#### (事務局)

大半を占めているのは20代、特に女性の転出が多く、逆に転入も20代の女性が多い。20代の方の結婚もしくは就職、その他の事情により転出される方、逆に転入される方もいるという認識をしているが、大変申し訳ないが、なぜ津島を出ていくかというところは分析できていない。

#### (委員長)

では、基本目標3「人の交流・活動を活発にし、都市イメージを改善する」、についてはどうか。目標指標は「市民で津島市に魅力を感じている人の割合」で達成率は84%となっており、シティプライドと言われるものである。シティプライドがあることは、そこに住んでもらうにあたっては非常に重要なことである。

#### (委員)

私は津島市のイメージが好きである。私がここで生活するようになったのは50年ぐらい前だが、その時の津島市のイメージというのは、教育については抜群であった。また社会的なインフラについても、周りの地域と比べるといいと聞いており、自分もそう思って生活をしてきたが、先ほど委員長もおっしゃったように、周りが段々と津島に近づいて平均してきた。じゃあ津島に何があるのかというと、困ることもあるが、やはり誇れるものというのは、私は教育だろうと思う。この地域の中では非常に先頭に立って色々なものを行っているように思う。先ほどの満足度の中にも、子育てしやすいまちだと思える人の割合が高いところがあったが、おそらく小中学生の親御さんがいらっしゃるところでそういった結果が出てきているのではないかと思う。学校に任せておけば、市に任せておけば健全に育つだろうというようなことで、これは経済的な支援ももちろんあるが、その中に含まれる人的な支援が学校の中にある。市独自で雇用される支援員さん、市が力を入れて重点的に財政的支援をされる外国語教育の講師の増員だとか、そういったものが説得力になって保護者の方たちは安心して子どもを任せているという点では大きいことだと思う。ポイントはお金をかけなければいけないということである。財政的な援助をしないことには、そういったものは出てこないということである。最近津島市は本当に教育について、色々なもので前向きにバックアップしている。まちづくりについても、当局にしてみればやりたいことがあるのもっと予算がほしいということはいくつもあるはずである。ところがある程度枠が決まってしまうとかで予算が出ない。予算が出せない

から他の地域と同じようなことしかできなくなってしまう、特色が出ない。そういったことを思うと、何とかして財政的に今年はこの部分、来年はこの部分という柱を作らないと、ひょっとして虻蜂取らずの形になってしまうと心配している。幸い教育については熱心に力を入れてもらっているようなので、おそらく当分の間は大丈夫だと思う。

(委員長)

お金の話が出たが、これは全般的にそうなのだが、どこの自治体も財政が厳しいわけで、津島も御多聞に洩れずというところだが、この基本目標1から4までに1つ1つ手を打っていこうと思うと、どうしてもお金がかかる。そういう意味では、まち・ひと・しごとのテーマとは直接は関係ないのだが、ここに書いていることの上位のところ、津島市だけでなく全ての自治体で、どれだけ税金を稼げるか、財政基盤をしっかりとさせるかということがあって、そこで稼いだお金で色々な施策を行い人を増やし、様々なサービスのレベルを上げていくことが大事になってくる。この先、市では新しい総合計画を作られるわけで、総合計画は割と当たり前のことばかり書かれることになるが、最近私が関わった総合計画では、計画上には書けないが、まずどうやって稼ぐかということが一番上にある。それで色々なことを考えていかなければならないと思うことが多くある。先ほど委員が言われたが、津島は傍から見ていると、よそよりも教育環境は恵まれていると思う。なので津島市の勝負所という点でいうと、その辺りを前に出していき、社会増減のマイナスを少しでも食い止め、愛西やあまなどの近隣に負けないように、その辺の魅力づくりを行うというのが王道なのかなと思う。

では最後の基本目標4「時代に合った地域をつくり、健康で安心な暮らしを守る」というテーマで、「地域の医療体制に満足している人の割合」、「住みやすいと感じている人の割合」が目標指標となっている。このテーマについてはいかがか。

ご意見がないようなので、このテーマは意見なしとさせていただきます。

以上で議題2は終了させていただきます。

### 議題(3) 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略について 事務局より説明

(委員長)

ご意見がないようなので、今日の議題はこれにて終了とする。ここで市長から一言お願したい。

(日比市長)

冒頭で委員長から話があったように、世界はコロナで大きく変わった。この半年間で様々な価値が変わってきている。これに耐えられない企業や組織、行政は生き残れないと言えるのではないかと考えている。今回色々なご指摘があったが、変えていか

なければならないもの、変える必要がないものをしっかりと見極めていかなければならない。また目標も変わってくることになると思う。その中で津島市は密でない空間が保て、名古屋から近いのでチャンスがあると思う。具体的に言うと、今天王川公園で事業をやっているが、今まであまり来たことがないような方が天王川公園に集まったり、日光川の堤防沿いを歩かれてこんな空間があるんだとか、地元を見直す機会、チャンスがこのコロナ禍で私の耳にも聞こえてくる。この津島の良さを積極的に市内市外にPRしていくことが必要ではないかと思う。そういったことで体験プログラムを色々なことに取り入れてみようかという話があったり、早いところではそういう動きが始まっている。それをしっかりと戦略的に発信していくことが必要だと考えている。

分析していないというのは本当に申し訳なく思っている。こういったことは本当に恥ずかしいことである。そんなことがないようにしていかなければならない。

観光でも、今までの京都のように大量に人が来る観光から、津島市のようにまち歩きができる、御朱印めぐりができる、体験ができるという世の中に変わっていくのは間違いない。

財政基盤ということだが、津島市は企業誘致を進めており、地盤が低いのでこんなところに企業が来るはずがないと思っている人もいるが、この4、5年で多くの企業が来ているし、今も建築中の建物が4つほどあり、着々と財政基盤を整えている。また先ほど定住の話があったが、都市計画の地区計画を利用して、約80万㎡の用途変更や容積率のアップを着々と進めており、第3弾を令和2年度に進める。このように確実に受け皿としての定住策も進んでいる。これらのことがまだまだPR不足だが、基盤整備や定住策を戦略的に行っていることは間違いない。そのようなことをしっかりとPRしながら、間違いなく変わっていくコロナ禍において、津島市はいいポテンシャルや立地があるということで、どしどしPRしていきたいと思う。

色々な面でご指導いただきながら、津島市を創生していきたい。

本日は様々なご意見をいただきお礼申し上げます。

## その他

(事務局)

第2期津島市まちひとしごと創生総合戦略につきましては、今後総合計画審議会の中で議論をしていく予定である。

次回の当委員会については、来年の8月頃に関催させていただきたい。詳細は事務局から追って連絡させていただく。

閉会